

竜の子奨学生

第21号
Mar.2018

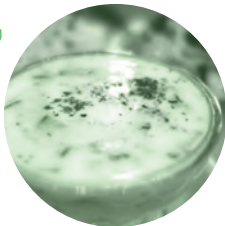
その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



第34回交流会 東京研修旅行にて



SPECIAL REPORT I
タイのお正月のお参り



竜の子奨学生が選ぶ、日本で食べられる母国の味！
チュウオット ヨーグルトと胡瓜のスープ上サラダ (Uzbekistan)

CONTENTS

- ② 卒業生の「現在の夢」
- ③ 第34回交流会レポート
- ⑥ SPECIAL REPORT I
- ⑦ SPECIAL REPORT II
- ⑧ 竜の子近況報告
- ⑫ 竜の子 (OB) 近況報告
- ⑭ 竜の子奨学生が選ぶ、日本で食べられる母国の味！
- ⑯ 編集後記



公益財団法人 竜の子財団

Tatsunoko Foundation

現 在 の 夢



馬 耀

2005年4月 筑波大学人文
社会科学研究科五年一貫制博
士課程入学
2012年3月 同課程修了、
博士（文学）学位を取得、専
門は日本文学
2008年4月～2012年3月
竜の子財団に在籍

現在 白百合女子大学・中央
学院大学 中国語非常勤講師

筑波大学大学院を修了したと同時に、それまで大変お世話になっていた竜の子財団を卒業しました。あれ以来5年の月日がたちました。その間、結婚・出産を経て現在に至っております。今は非常勤講師として、二つの大学に週4日間出講しています。周知の原因で娘も待機児童の一人であり、私が仕事の時は義母に娘の面倒を見てもらって、仕事が終わるとダッシュで帰宅します。電車に乗っているか、教室にいるか、育児・家事に追われているかの生活を長く続けていると、「夢」について考えることもまた夢のようでした。そのため、今回「現在の夢」というタイトルで会報誌執筆の話をいただいた時、目の前にある毎日の生活だけに一生懸命になっている自分に気付いて、少なからぬショックを覚えました。その事実気付かせてくれた今回の執筆依頼に深く感謝申し上げます。

「現在の夢」について真剣に考えてみると、ここ数年間、仕事・育児のほかに取り組んでいることを思い出しました。それは家庭菜園のことです。田舎育ちのためか、勤務先が都内にあるにもかかわらず、住処を東京からかけ離れているのかな田舎に定めております。今の住居に引っ越してから、近所で家庭菜園を借りています。わずか30平米ほどの面積しかありませんが、さまざまな季節の野菜を作ることができます。農薬や化学肥料を使わないことがこだわりで、収穫した野菜は市販のものよりずっと味が良いです。昨今あちこちで「食育」という言葉を目にします。美味しいものを口にすることによって幸せを感じて、身体の健康だけではなく、心の豊かさにもつながるはずですが、しかし、利便性・効率化・コスト削減を追求するあまり、学校給食を含めて子供たちに提供される食事の内容は、本当に健全な食生活と言えるのでしょうか。添加物たっぷりのパンを未来の担い手に食べさせ続けて良いのでしょうか。はなはだ疑問を感じているところです。幸い、今は多くの人々が「医食同源」という言葉の意味を認識しており、地道に努力しています。私もその一人です。

いつか大きな農園を作って、野菜だけではなく家禽や家畜も飼育して、晴耕雨読の生活を送りながら、こだわりの安心・安全な食材をより多くの子供たちに届けることが私の現在の夢です。夢だけで終わってしまうような夢ですが。

ご寄付いただいた皆さまへ

この度、竜の子奨学生を代表し、ご寄付をいただいた皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。

私達は自分の学問や分野により様々な夢を持ち、その夢を叶えるために日本に留学したのです。その夢が大きければ大きいほど、実現できるには精神的、経済的なサポートが必要となると思われます。ご支援をいただいたうえで私達は安定し、その大きな夢に向かって充実の留学生活を送っています。その安定感は何だろうというと、自分の頑張る力や活発に努力させるチャンスがより広く使えるようになるだろうと思います。それで、ご支援してくださった皆様へ感謝の気持ちを忘れず、いつか私達の夢を実現できたら、寄付者の皆様はじめ、日本社会にご恩返しをしたいと思います。

（平成27年度竜の子奨学生 名古屋大学大学院 ユルダシェブ サドラ）

第34回交流会レポート（東京研修旅行）

平成29年7月19日～20日、竜の子奨学生の第34回交流会が東京で行われました。今回は東京研修旅行で、19日の朝上野公園口集合から始まり、国立科学博物館や国立西洋美術館を見学しました。20日の午前中は浅草にて観光人力車体験と弓張提灯製作体験をし、午後からは上野動物園で癒されて満喫しました。

● 1日目 ●

交流会の一日目は、見学の場だったと思います。竜の子奨学生の皆は朝早く自宅から出発し、東京JRの上野公園口で集合しました。皆がちょうど揃ったら、公園を渡り、当日の泊まる所である水月ホテル鷗外荘に着きました。その後、荷物ホテルにて保管していただき、皆で歩いて近くの国立科



地球館1階、地球の多様な生き物たち

学博物館や国立西洋美術館の見学に行く予定でした。雨の中、皆で楽しく歩いているとすぐに国立科学博物館に着きました。

国立科学博物館は6階建てで、私達は地下1階から3階まで見学しました。特に、生物の進化といった恐竜の世界に入ったような感じがする地球館地下1階の展示物とそのほかに、昔の力強く生きてきた哺乳類と鳥類の見学がすごく楽しかったです。私達のグループは、竜盤類と鳥盤類に分かれている恐竜進化の展示物を何度も回り、地球の多様な生き物たちをみるために1階に上がりました。魚系に関心を持っている私にとっては日本館3階南翼の展示『日本列島の素顔』が非常に印象的でした。

その後、近くの国立西洋美術館に見学に行きました。西洋の美術作品を専門とする美術館は1959年に設立され、外観はそんなに美しいと思わないかもしれませんが、実際には内部が明るくて美しい美術館でした。美術作品が中世末期から20世紀にかけての西洋絵画で、私含め見学者の皆にとって一番楽しかったのはアルチンボルド展です。なぜかという、アルチンボルド展の美術作品は果物や野菜、魚や書物といったモチーフを思いがけないかたちで組み合わせた寓意的な肖像画だからです。展覧会場入り口では、黒いポートレートみたいな謎の機械があって、人の顔を確認し、野菜や果物など



日本館3階南、日本列島を囲む豊かな海、『黒潮温帯海域』



国立西洋美術館、玄関前のポスター

を組み合わせたアルチンボルドの肖像画風に作ってくれるのです。私も顔をアルチンボルド化するマシンの前に並んで、野菜や果物から作られた自分の顔の写真を一緒に撮りました。

国立西洋美術館を出たら、竜の子奨学生皆で歩きながら近くにある鰻を専門とする伊豆栄不忍亭に夕飯に向かいました。残念ながら私は鰻は食べなかったのですが刺身などをいただき、料理は全て美味しかったです。竜の子奨学生達は、美味しい鰻をゆっくり食べながら、大学での研究のことや我々の文化的な食事習慣などについて話すことができました。

夕食を済ませたら、水月ホテル鷗外荘に戻り、夜にかけて天然鷗外温泉で気持ち良く体と心を癒しました。そして、寝る前にはみんなで、面白くて恒例の人狼ゲームをやり、楽しみました。水月ホテル鷗外荘の、敷地内には明治の文豪・森鷗外の旧居を保存してあるので、京懐石が有名なホテルの日本料理を食べてから、旧居を見学しました。



夕飯の鰻料理



敷地内にて明治の文豪・森鷗外の旧居

(担当：平成27年度竜の子奨学生 名古屋大学大学院 ユルダシェブ サドラ)

● 2日目 ●

交流会の1日目は博物館で「見る」ことを通しての文化体験だと言うなら、2日目の交流会のテーマは「遊ぶ」と言えるでしょう。

最初に行ったのは浅草でした。午前中に竜の子奨学生たちはまず2チームに別れて、交代制でそれぞれ一時間程度の観光人力車体験と弓張提灯製作体験をしました。そして午後にもまた上野に戻り、上野動物園を満喫しました。

弓張提灯製作体験で竜の子奨学生達は本格的な弓張提灯を与えられ、そこに名前や好きな文字・絵柄を書き入れることでそれぞれのオリジナルな提灯を作成しました。普段時代劇でしか見られない提灯を実際に見れて、かつ自分で装飾できることに多くの竜の子奨学生達が大変喜びました。そして殆どの人にとっては初めての体験となるので、最初に提灯を与えられた瞬間に何を描けばいいかを慎重に思案していました。普段紙で絵を描くのとは少し異なり、提灯の表面は平面ではなく不規則な円形ですので、書き間違いやすいのです。そのため、書き間違いがないように、多くの人はまず紙に絵の練習した後本格的に提灯に描き始めました。

最初は少し不安でしたが、意外なことに開始から30分も経たないうちにそれぞれの個性溢れた作品ができました。作品の中では、自分の名前を提灯に描くのが一番多いケースでした。伝統的な提灯と現代感のある文字スタイルとの組み合わせで、おしゃれな提灯ができ上がりました。その他、苗字ではなく、自分の好きなアニメのキャラクターや、好きな食べ物などを描く人もいました。初心者でありながら、全体的にクオリティーの高い提灯ができたのではないかと思います。



竜の子奨学生たちの提灯作品です

提灯体験と交代で、竜の子奨学生たちは浅草名物である観光人力車体験もしました。人力車に乗りながら、提灯体験地の「時代屋」から、雷門、隅田公園、伝法院通り、二天門、浅草神社、そして浅草寺など、浅草エリアの観光名所を順次回りました。日本の観光名所として、以前浅草の街を訪ねたことのある竜の子奨学生もいたが、人力車から普段と違う浅草の街の魅力を感じることができたと思います。回った観光スポットの中で、最も印象的だったのは隅田公園でした。公園から直接スカイツリーが見えて、かつそれを背景に人力車に乗った姿を映すことができる特別な写真一枚が撮れました。



隅田公園から見るスカイツリー

文化体験を経て、お腹もそろそろ減って来た頃、昼食にと天ぷら料理店の葵丸進へ向かいました。1947年創業の老舗で浅草名物の天ぷらの味を堪能でき、初めて天ぷらの美味しさが分かりました。外がサクサクで中が柔らかい天ぷらの味に感動し、「絶品です!」とつい声が出てしまう人もいるほどでした。



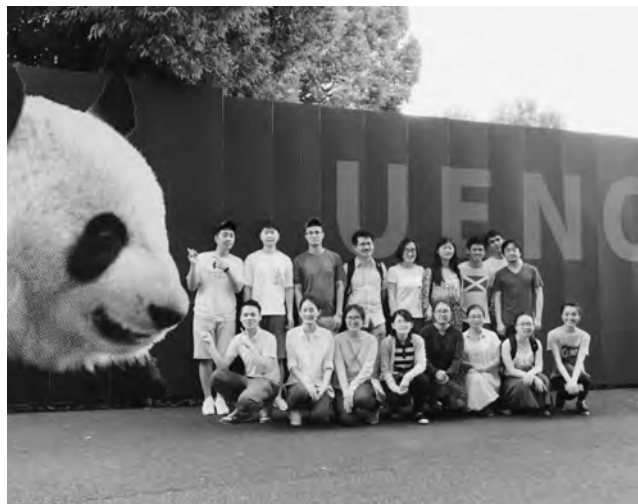
昼食の名物天ぷら

昼食後に浅草から再び上野に戻り、チームに分かれて上野動物園を散策しました。多くのチームは動物園に入っすぐジャイアントパンダを見ました。その時子供パンダのシャンシャンが生まれて3ヵ月しか経っていなかったため、シャンシャンをわざわざ見にくる人が多く、非常に長い列ができました。しかし残念なことにその日シャンシャンがまだ一般公開されておらず、そこにいるのは母のシンシンだけでした。子供を出産したばかりの影響か、シンシンが非常に落ち着いてあまり動きませんでした。



上野動物園で昼ごはんを食べているシンシン

夏の午後の東京は暑くて、かつ動物園内が混雑していたため、結局時間内に全ての動物を見ることができませんでした。しかし、普段会えない奨学生にも会えて、そして研究の話からそれぞれの国の文化の違いなど、楽しく交流できたのは非常に有意義だと思いました。短い時間でしたが、また次の交流会で皆さんに会えるのを楽しみにしています。



上野の集合写真

（担当：平成27年度竜の子奨学生 一橋大学 曾 毅春）

SPECIAL REPORT I

● タイのお正月 ●

日本のお正月といえば長期の休みと考えているかもしれませんが、タイではそんなに長く休みが取られることではなく、ほとんどは12月31日から1月3日まで4日間しか休みがありません。その理由はタイのお正月は3回もあるからです！

日本と同じようなお正月はもちろんありますが、それに加え、タイの国民全体の人口は15%が中国系タイ人なので、旧正月も人によってタイのお正月のひとつに数えられています。さらに、実際のお正月は年末年始ではなく4月13～15日なのです。その三日間には有名な水掛祭りが開催され、タイ語だとソンクラーンと言います。

12月31日が近づいてくると日本では大掃除などをし、新年になると良い年を迎えるようにお寺や神社などに行って初詣を行います。一方、タイでは街がとても賑やかになり、大勢の人がカウントダウンのイベントが開催される場所に集まって皆で楽しく新年を迎えることが多いです。タイ人は年の変わり目にイベントを続けていると良い一年になるという考え方があります。そのため、最近お寺で前日の夜から翌日にかけて祈るという過ごし方も多くなってきて、日本と似てきていると、感じています。

しかしながら、大掃除をするのはその年末ではなく、旧正月の前に大掃除して、当日には掃除を一切せず、悪口などもしてはいけません。その理由は旧正月の日に掃除すると幸運を家または自分から取り出すこと、そして、悪口などは不運なことが入ってくると信じています。一般的には赤色の服を着て、朝は神様と先祖に祈り、夜は家族が集まってきてお年玉を子供たちにあげるといった一日を過ごします。

最後に、タイ人に対して一番大事なお正月で、歴史が長く昔からやり続けているソンクラーン祭りです。昔は、旧正月のように毎年の日程が変わりましたが、1888年に日程を決め、その時から4月13日、14日、15日がタイのお正月になりました。その時、世代から世代へと口承で伝えられる物語が

あります。

あるお金持ちの家族はどうしても子供ができなかったのですが、ある日神様にお参りすると、子供ができました。その子は占い師になり、ある日ある神様が質問を聞きにきました。もし、彼が答えられたら、神様が自分の首を切って彼にあげますが、彼が答えられなかったら、逆に彼が自分の首を切って神様にあげるという約束をしました。占い師はどう考えてもその問題を解けそうでもなく、その時に鳥の間の話声が伝わりその答えが彼にばれてしまいました。そのため、神様が負けてしまって、自分の首を切ろうとしますが、「もし我の首が地面に落ちると、大火事が起き、空に投げると雨が一滴も降らなくなり、海に捨てると、水が乾いてしまいます」と神様がいました。その、神様の7人のうち1人の娘がお盆で神様の頭を受け取って、年一回で60分間かけてその頭をお参りするという話でした。どの娘がお参りに来るかによって、その年の運を占いとして使います。

その三日間の間はお正月だけではなく、4月13日はお年の日で、家族が集まって、お年の人に水をかけて参ります。14日は家族の日で、その日家族の皆が一緒に過ごします。なぜ水をかけるかというタイでは暑い国で、特に4月は一番暑いので、体を冷やすためにお年の人足元に水をかけて参りますが、時代と共に変わり、皆がお互いに水をかけてさらに、パウダーも顔にかけられるようになって、今の水掛祭りになりました。人にお水をかけるだけではなく、各家や各寺においてある仏像にもお水をかけて祈ります。

そういったことから、タイのお正月は3回もあります。しかし、旧正月は人によって何もしない人もたくさんいます。そのため、旧正月だけは祝日ではありません。一番休み期間が長いのはやはりソンクラーンの休みです。みんなが実家に帰り、家族全員が揃って一緒に過ごせるようにします。是非一度タイのどれかのお正月を楽しんでみて下さい！



一般のお正月をお寺で過ごした時の写真です



一般のお正月のイベント会場ですが、去年亡くなった国王様の喪中だったので、騒がすイベントが中止されてシンプルなイルミネーションだけやりました。(2016年の写真)



水掛祭り（ソンクラーン）

SPECIAL REPORT II

● ベトナムのお正月 ●

近年、新暦を迎える人もだんだん増えているものの、一般的にベトナムでは旧暦の方が正式なお正月です。ベトナム語では、旧暦のお正月をテトといいます。何千年もの間、テトを祝うことはベトナム人にとって最も神聖なものです。では、テト期間のベトナムはどんな感じでしょうか。

小さい頃から、テトは私の一番楽しみにしていた祝日でした。なぜなら普段どんなに忙しくても、テトの休みになったら家族に会うために遠くにいる人までも実家に帰り、皆で一緒にテトを迎えるからです。テトを祝うための準備は、一般に旧暦12月の前半から始まり、親は大掃除をしたり、テトの飾り付けをしたり、買い物とテト期間に利用する料理の準備をしたりして備えます。テトまでの準備は非常に大変ですが、テトになった時の雰囲気は素敵な感じがあります。テトには、ベトナム人の家族に欠かせない4つ物があります。それは、テト期間だけに綺麗に咲くお花、代表的なモチ米から作られたバインチュン、生姜ジャムケーキなどのテトのみに利用される伝統的なお菓子と5種類を含んだ果物セットです。田舎では毎年、テトの3日間家族のみんなは、近所の友人と集まって一緒に多量のバンチュンを作ってから、大きな鍋で一晩中茹でながら話をすることが多いです。私は母にバンチュンの作り方を教えてもらったり、バンチュンのお鍋の近くにいとこ達と遊んだりしたのをよく思い出します。また、テトの果物セットは5種類の果物を盛り合わせた、先祖へ贈るものとして「新年経済的に十分に生活できるように」という願いを意味します。大晦日に、両親は先祖のための祭壇やおせち料理を準備することに忙しいのですが、子供たちは一年一回だけ見られる新年の番組を見るためにテレビの前に集まって待ちます。真夜中になる前に、父はいつも私と姉を花火を見に連れていきました。年が明けてから、ベトナム人は、日本人と同じように、家族で神社や寺院などに参拝したり、親戚に新年の挨拶回りをしたり、皆で揃ってお正月の料理を食べたり、ビールを飲んだりして新年をお祝いします。その時、子供達やお年寄りの人にお年玉を渡す習慣もあり



テトのお花市場にて

ります。このようなお祝いの雰囲気は、テト期間が終わったとしても一週間ほど続きます。

しかし近年、我が国を発展させることを目的として日本のように、テトのお祝いを新暦で行うという意見が多数ありました。これは、ベトナムの経済的な相手となっている日本や欧米の諸国が主に新暦正月を祝い、旧正月の期間に休業しないことに対して、ベトナムではテトの10日間ほどの連休で工場や貿易などが止まることで経済発展に影響を与えられるというような考え方からです。やはりこのグローバル化の時代により良い世界を創り出すためには相互理解、協力、そして統合は大事ですが、その理由で自分の根、または自分の伝統を失ってしまうというのは大変悲しいことではないでしょうか。

その実、留学に行ってからというもの、私は毎年留学生の友達と一緒に新暦の正月のカウントダウンに参加したり、日本人の友達と初詣に行ったり、新暦の正月を祝うことにも慣れてきました。一方、旧正月の時に試験期間がいつも重なったので、子供の頃のようにテトを祝う機会が少なくなっており、勉強したり、会議したり、アルバイトしたりばかりでした。ですが、そう経験をしたこそ私は旧正月のことがもっと恋しくなりました。本心では新暦の正月は友達と遊びに行く日や異文化体験の日だけで、本当の年明けならテトだと感じています。家族や母国から離れて多様な人たちと出会ったり、異なる文化を学んだりしたからこそ、母国の伝統のことをより誇りに思い、より大切にしたいくなるのです。何よりも私をベトナム人らしく



ベトナムのおせち料理

するものは、先祖が時代の変化に負けずに守り続けてきたその伝統だと思います。今年3年ぶりに自分の実家で家族と一緒にテトを過ごし、子供の頃感じた「楽しみ」や「幸せ」を思い起こしました。皆様もし機会があれば、是非ベトナムのテトを一度体験してみませんか！



APU大学の2017年ベトナムウィークのテト紹介ブースにて

竜の子近況報告



名古屋大学高等研究院、野依教授との会合(本人後列左から2番目)

ユルダシェヴ・サドラ・ヌルラエビッチ (ウズベキスタン)

名古屋大学大学院 国際開発研究科
国際協力専攻 博士2年

「学会の指導者との会合」

この間、私を含む選ばれた6名の博士課程学生が、ノーベル化学賞受賞者の野依教授と会う機会を得ました。そして、『Overcoming Fear of Failure (in Scientific Research)』と言ったテーマで教授の話を伺ったことは、私にとって非常に印象的でした。私は、高等教育を受けた5%の中で、学術的なキャリアを追求した1%未満に収まるほど幸運です。それゆえに、先生が『学者は育てられた社会にフィードバックを与えなければなりません』と述べていらっしゃいました。これからも頑張ります。



生明祭の時、
私とめいじろう

トウ テンリ 唐 天利 (中国)

明治大学 農学研究科 農学専攻
修士2年

「修論に向けて頑張っています」

現在、私は修論に向けて頑張っています。自分の実験を行った途中でいろいろなことがあって大変でしたが、研究室の先生と友達が手伝ってくれたおかげで、分析が無事に終わりました。修論も順調に進んでいます。また、昨年11月下旬に明治大学生田キャンパスで「生明祭」を行いました。私が所属している野菜園芸学研究室は学生たちが育てた野菜を販売していました。学生時代の最後の学園祭なので、いろいろなイベントを楽しみました。これから修論だけではなく、残りの学生生活も思い切り楽しみたいと思います。



花見中の私

ホウ メイ 方 梅 (中国)

九州大学 医学系研究科
医学専攻 博士4年

「卒業に向けて頑張ってます」

私は相変わらず、卒論に向けて頑張っています。昨年5月から9月まで、論文について追加実験をやりました。今年2月に投稿するため、先日は最新の改定稿を先生に送りました。子供を月曜日から土曜日まで、毎日8時半保育所に送って行って、午後6時退所しました。家に帰って、子供と一緒に楽しく3時間過ごしています。旧正月には両親が中国から日本に来てくれてとても嬉しかったです。



友達がいるところに
滑っていく私です

コ セイヒ 胡 政飛 (中国)

北海道大学 文学研究科
人間システム科学専攻 博士2年

「楽しい冬」

札幌はすでに半年間の冬モードになりました。長い添削を経て、今は1本目の論文の投稿準備をしています。まずはやるということが大事なので、いろんな心配事を置いておいてどんどんやりたいと思います。新しい実験は、何度も調整したうえで無事に始まりました。その次にデータ分析の山を乗り越える準備も進んでいます。

忙しい毎日の唯一の楽しみは、毎週末にスキーに行くことです。素敵な企画のお陰でスキーができるようになって、大好きになって、長い冬を楽しむようにもなりました。

学業に忙しい皆さんも体を動かしたら頭も動くようになるので、運動もやって下さいね。近いうちに春が来るから、冬を楽しみながら一緒に待ちましょう。



英語スピーチコンテストで3位に入賞しました（本人左）。

マハウォンウィリヤ・スタシニー（タイ）
東海大学 教養学部 国際学科
学部3年

「プレ卒論作成中です！」

私は現在プレ卒論に集中していますが、学内の英語スピーチコンテストや講演会の通訳など、新しいことに挑戦できてとても充実した日々を送ることができました。プレ卒論ですが、元々環境問題に興味を持っていて、そして春学期に国際法の授業でワシントン条約の話を知りましたので、テーマは捕鯨問題にしました。捕鯨問題は思ったより複雑で個人の感情を入れられないように書くのが難しいですが、これからも頑張っていきたいと思います！



2017. 11. 3
京都大学読史会報告にて

リョウ ギョウエキ
梁 曉奔（中国）
京都大学 文学研究科
歴史文化学専攻 博士3年

「投稿論文作成中」

昨年11月に学会報告が幾つか重なって、締切に追われる日々でした。現在は報告内容を活字化することに専念しています。今年度で博士論文提出できるよう、努力します。追伸、クリスマス直前に、近所に24時間のジムが新たにオープンしたので早速申込みました（現時点でまだ一度も行っていないですが…）。



就活バンケット（HYUNDAI製鉄）の様子

ムン キルジュ
文 吉周（韓国）
九州大学 工学府研究科
機械工学専攻 博士2年

「就職活動そして各論準備中です ^^」

私は昨年10月から博士後期課程3年生になりました。卒業まであと1年になりましたので就活と卒業準備を頑張っています。今のところ韓国HYUNDAI自動車グループの製鉄会社から内定通知をいただきました。来年からは無事に卒業ができるように本格的に頑張っていきたいと思います。それでは冬の交流会でお会いしましょう。



研究室の忘年会に先生宅訪問の時（本人後列左端）

バク ユンシク
朴 胤植（韓国）
東京工業大学 理工学研究科
化学工学専攻 博士3年

「学位まで後一步」

私は卒業のために研究と論文を頑張っています。初の学会誌を目指し精進していた研究の実験結果が良くなかったのが、すごく大変でした。教授と相談して、新たな研究方法で進行中です。結果にこだわり過ぎると良くないんですが、思いの外、簡単ではありませんでした。今年は留学の初心時を思い出して、もっと頑張ります。それでは次の交流会でお会いしましょう。



ゼミの忘年会です（本人後列左端）

タン インチャン（マレーシア）

筑波大学 社会・国際学群
社会学類 学部2年

「卒論テーマの決め方は大変でした」

私はあと少しで4年生になるので、卒業論文を考えないといけない時期になってきました。そのうえにテストもたくさんあって、最近は大変です。いろいろな本を読んで、先生と相談をしていますが、未だに書きたいと思うテーマが決まりません。学部生にとって、卒論が一番大切で大きなプロジェクトなので、楽しく書けないともったいないと思います。ですので、今後4月までは、焦らずに卒論テーマを慎重に選んでいきたいと思っています。



家族と北海道にて
（本人左上）

朴 サンウォン 朴 相源（韓国）

東京工業大学 物質理工学院
材料系専攻 博士1年

「楽しい研究生活」

前回申し上げた論文は、無事に米国化学会で出版されました。応援してくださった皆様のおかげです。ところで、私は博士課程からは主に量子化学理論の研究をしていて、よく大学のスーパーコンピュータに接続して計算を行っています。最近、携帯からもスーパーコンに接続できるようになり、いつでも楽しく研究ができるようになりました。それでは次回の交流会でお会いしましょう！



（本人3列目中央）

グエン ヴ タオ グエン（ベトナム）

立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部
アジア太平洋学科 学部3年

「4回生の日々」

私は今学期学部の4回生に入ったので、卒論と就活のためにいろいろな準備をしていて最近は大変です。ですが、4回生になったからこそ今までにやったことがない活動を多く経験できるようになっています。大学のゼミ発表大会に参加したり、1回生を対象にするゼミ授業でTA（ティーチングアシスタント）をしたり、友達と一緒に長期旅行に行ったりしています。日々に忙しいですが、本当に楽しく過ごしています。

前回の交流会に参加できなかったので次の交流会を本当に楽しみにしています。2018年もよろしくお願いたします。



三浦海岸でのマラソン

ケン エ 権 慧（中国）

東京大学 人文社会系研究科
アジア文化研究専攻 博士3年

「毎日を大切に」

博士論文を2017年度提出締切に間に合うように調整し、論文の最終整理をしております。これからの道のりは長いような気がしますが、最後まで諦めずに頑張ります。

2017年は非常に充実した一年でした。昨年執筆した村上春樹文学に関する論文が今年1月末頃に論文集で刊行され、また年末に世界史に関する本を翻訳し、今年中国で出版される予定です。一昨年からハーフマラソンを始め、今年も走り続けたいと思います。

2018年も真面目に毎日を大切にしてお過ごし、心の中の夢を一つずつ実現していきたいと思っています。



久しぶりの先生とイベントで会った時（本人左）

チン エンライ
陳 衍磊（中国）
東京電機大学 工学研究科
専攻 修士2年

「学会と修士論文で忙しい」

2017年が終わって2018年になりました。2017年は充実の一年でした。就職活動が無事に終了し、更に人生にとって一番重要な事として彼女と結婚しました。急に大人になったことを感じています。そして、修論提出の締め切りも近づいてきました。今、修論を完成させるために、日々研究室で一生懸命実験を行いながら論文を作成しています。4月から社会人になり、自分の夢を実現していきたいと思います。



スキー場にて（本人左端）

イ サンギョ
李 常揆（韓国）
早稲田大学 政治経済学部
経済学科 学部4年

「大学院無事合格しました」

去年夏の交流会には参加できず、とても残念でした。私は、第一志望であった母国のソウル大学経済学部の修士課程に無事合格をすることができました。すべてが竜の子財団と皆さんの応援のおかげです！ありがとうございました。卒業まではまだ時間が残っていますが、予定より早く母国に帰国し、新しい生活が始まる前に家族とのんびり時間を過ごしています。また、今年の6月末から兵役義務の代替として公益勤務要員との生活が始まります。夢に向かって一步一步、進めています。いつも皆さんの健康と成功をお祈りしています！もし、韓国にいらしたらご連絡下さい！



博論の初校

キン コウカ
金 香花（中国）
京都大学 文学研究科
思想文化学専攻 博士3年

「博士論文の完成」

いよいよ博士論文を完成させ、提出させていただきました。3年前に竜の子財団の支援をいただけるようになった時から、本格的に博士論文の完成に向けて頑張ってきましたが、なかなか計画通りにうまく行かない時期もありました。今までの短い人生の中でもっとも辛い時期でした。しかし、その中でも続けて支援をして下さった竜の子財団があったからこそ、最後まで粘ることができました。「感謝」いたしております。



卒業研究発表会に参加しました（本人右端）

**チャンポンバックディー
インオン（タイ）**
東海大学 工学部
医用生体工学部 学部4年

「最後の学部生生活を楽しんで頑張っています」

あと数ヵ月間で私は学部生として卒業します。最近、卒業研究で忙しくなって来て、卒論を書いています。そして、大学院が決定しましたので、先行履修で大学院の科目を履修することが可能になり、いくつかの科目を取っています。去年の9月に第2種ME技術実力検定試験に合格しましたが、3月に行われる臨床工学技士の国家試験も目指しています。研究室生活を楽しんでながら、卒研もテストの勉強も頑張っています。



2017年博物館の人類学シンポジウムの会場にて

ソルヤ（中国出身）
東京外国語大学 博士3年

「現在調査のデータ分析をする日々」

私は昨年8月北京で中国民族博物館が主催した「2017年博物館の人類学シンポジウム」に参加し、発表しました。近年、中国の人類学研究が始まりましたが、かなりのスピードで進んでいることに驚きました。ほかの先生、博士たちからも意見が聞けて勉強になりました。北京から実家へ戻り、娘を実家に残して、現地調査に行きました。たくさんの写真を撮り、現地の人々にインタビューし、データを集めました。昨年4月から旦那が大学院に進学し、6月から娘を一時保育に預け、現在4つの保育園を利用し、勉強の時間と育児の時間のバランスを取れるようになりました。夏休みで調査したデータを整理、分析しています。育児も楽しみながら、子供の成長を実感しています。



竜の子(OB)近況報告



結婚式記念写真 (本人右)

イ デイヨン
李 大英 (韓国出身)
北海道大学卒業

「結婚式を挙げました」

社会人の3年目、現在京都でサプリメントを研究している李です。健康をいかに維持するか日々考えていますが、理論と製品とのギャップがどれだけ大きいかを日々感じています。また、お勧めの製品ができたらご紹介します。

さて私事です、昨年11月25日に韓国で結婚式を挙げました。お互いに仕事がありまだ同居しておりませんが、近いうちに一緒に暮らせればと思います。



香港の国際物流会議に出席時の様子 (本人右端)

ギ トウキ
魏 登輝 (中国出身)
東京外国語大学卒業

「一人前への成長途上」

月日が経つのは早いもので、新橋のサラリーマンになって、もう4年目になります。仕事は太陽光パネルやバイオディーゼルなど、エネルギー関連の資材や原料の輸出入を担当しており、現在は日本の通関士を目指して、久々に試験特訓に励んでいます。

また、最近は海外のプロジェクト案件で出張が多くなっていますが、日本にいる時の拠点は基本的に新橋ですので、皆さんが新橋あたりで一杯されるような機会があれば、ぜひ私にお誘いのお声をかけて下さい。

次に会う時にお互いの成長を語れるよう、共に頑張っていきましょう。



新しい研究室の先生たちとつくばのある場所での夕食時間

キム テヒョン
金 兌炫 (韓国出身)
京都大学卒業

「12月から新しい生活」

昨年は私としては学生の最後年度でしたので、年度初めから就職活動をしながら学位申請のための準備をしていました。就活は年度初め頃は中々思い通りに進まなく辛い日々を送りました。夏休みが終わる頃、金沢大学に私の研究内容に近い研究室からの応募があり応募したら、1週間も過ぎないうちに内定の連絡を貰いました。それで、就職先の都合により急に12月からお仕事を始めることになり、今は金沢大学で研究員として頑張っています。博士学位は取得できず仕事を始めたので、仕事しながら学位取得のことを片付ける予定です。まだまだ大変かも知れませんが、後もう少し…色んな意味で元気に頑張り、皆さんに良い知らせをできるようにします。



シンガポールのマリーナベイサンズでのマラソン (本人右端)

リム・ヤンクアン (マレーシア出身)
名古屋大学大学院卒業

「シンガポールの生活始まり！」

2017年7月からシンガポールに転職しました。日本でしか仕事をしたことがない自分は逆にカルチャーショックがあり、色々な意見違いやトラブルがありましたが、頑張っています！

もし、今後シンガポールで活動などあれば、連絡をお願いします。

「韓国に帰国しました」



韓国で楽しんだ家族旅行（本人右端）

カク クンピョ
郭 錦表（韓国出身）
東京工業大学卒業

私は兵役の義務を果たすために、韓国に戻っています。
一般的な兵役の制度だと、軍人として義務を果たします。しかし、韓国には修士以上の学位を持っている人に限って、会社や国の機関で3年間働く条件で一般の社会人と同等な立場で兵役の義務を果たすこともできます。

自分はこの制度で国の機関で働いています。勤務先は大田（デジョン）市です。入社してたった7ヵ月しか経っていないですが、いくつかの仕事を同時進行して行かなきゃいけない大変さと仕事の責任感を感じています。これは社会人として一歩前進するために、誰も通る道だと思っています。これから竜の子奨学生の一員として明るく、元気よく一歩一歩進めていきたいと思っています。

最後に皆さん、韓国を訪ねる機会がありましたら、是非ご連絡下さい！

「苦しさ楽しさの社会人1年目」



韓国で新年旅行

ナイン トウラ（ミャンマー出身）
明治大学卒業

卒業後は就職活動をしました。昨年内で入社できるメーカー企業に採用され、一年目は海外事業部で輸出輸入の仕事を頑張っております。

ミャンマーを含めタイやインドネシアなど東南アジア諸国への輸出が多いので、本社・支社・工場・物流会社と毎日コミュニケーションをとっています。自分の語学力が活かせるので、やりがいは感じますが、書類の準備や報告漏れなどまだ改善しないといけないミスも多いです。

準備不足で急に社会人になりましたことで、仕事でも色々大変ですが、一所懸命働くことは自分で稼げるようになることだと思います。

またそれは、趣味を楽しめるチャンスでもありますから、休日は習字を書いたり、美味しい料理を食べに出かけたりしながら、仕事の大変さ、苦しさで落ち込まないように人生を楽しんでおります。

「研究所で働いています」



社会人としての初めての研究会

ボウ フクメイ
房 福明（中国出身）
東京工業大学卒業

去年3月に博士を卒業して研究所に入り、社会人になりました。最初の数ヵ月間は暇でしたが、論文を出さなければいけないことは仕事ですので、半年前からはほぼ毎日休まず実験と論文を繰り返している生活になりました。忙しくても疲れても、自分のアイデアを試しながら、研究を楽しんでいます。

論文は重要なのですが、研究所は神保町にありますので、疲れた時は皇居で散歩したりおいしい料理屋に行ったりして、この環境を活かして少し息抜きもしています。

「やり甲斐を感じる仕事をしています」



先日会社新年会の時撮った会社メンバー写真（本人右端）

シン チュウカ
申 中華（中国出身）
東京大学卒業

2014年3月に卒業した申中華です。勤めている会社は旅行&コンサルティングの会社です。来日している中国の企業家たちを、ただの観光ではなく、日本の同業者と交流できるようにサポートする仕事です。日中両国の文化やビジネス慣習の違いにより、毎日異なる難題が廻ってきます。非常に自分の未熟さを痛感する仕事ですが、やり甲斐も非常に感じています。日中の企業交流によって、新たな合弁会社の設立や、M&A（合併・買収）が実現する度に、非常に達成感を感じます。これからも頑張ります。



竜の子奨学生が選ぶ、日本で食べられる母国の味！

留学生達にとっては、日本に留学できるのは夢でした。留学生活を送っていくうえで、時には、母国の味わいの料理を食べたい時が出てきます。幸いなことに東京では、忘れられない故郷の味を楽しむことができます。今回は、私達が一緒に集まり、皆で食事をしながら故郷のことを思い出せるお店を紹介します。是非楽しんでみて下さい。

Vietnam

グエン ドク ティエンさんおすすめのベトナム料理店『バインセオサイゴン』は2002開業以降15年間で2店舗を営業しています。今回は、新宿店を紹介します。

ベトナム料理といえば、フォーがよく知られていますが、フォーよりも家庭でよく食べられている麺の一つにブンがあります。ブンは、米粉の生地で作られ、断面が丸くてソフト麺のような太さのもので、麺料理以外のものにもよく利用されています。

そのブンを用いた料理の中で、ベトナム中部の古都フエの名物料理にブン・ボー・フエがあります。中部出身の私はこのブン・ボー・フエが大好きで、故郷の味を食べたくなった時は、ブン・ボー・フエを思い浮かべます。友達の紹介のお陰で、「バインセオサイゴン」で母国のような味わいのブン・ボー・フエを食べることができ、感動しました。ここで少し辛い味のブン・ボー・フエを食べると故郷を一層感じられます。

特にこのお店では、バインセオのボリュームも満点です。ベトナム風お好み焼きのようなバインセオは、米粉とココナッツミルクをもとに、エビや豚肉やもやしなどをたっぷりと乗せて焼き上げ、レタスにハーブなどの野菜と一緒に包んで食べる、とてもヘルシーな料理です。北部より南部では、日常的な家庭料理としてバインセオがよく食べられています。

さらに、ここでは、南部の代表的なフルーツの一つであるマンゴーを使ったマンゴーごろごろのベトナムパフェを食べられます。そのことにより熱帯国である母国ベトナムの暑さも思い出されるのです。



ブンボーフエ



バインセオ



マンゴーごろごろ

住所 東京都新宿区新宿3-36-14 カワノアネックス6・7F
営業時間 月～木・土日：11：00～23：00 金（祝前日）：11：00～27：00 定休日（不定休）

Uzbekistan

ユルダシェブ サドラさんおすすめのウズベク料理店『ALOHIDDIN アロヒディン』は、八丁堀店と日本橋店の2店舗を営業しています。今回ご紹介するのは八丁堀店です。

本店の特徴は、ウズベク料理の味を楽しむのであれば、このお店しかないと思うのです！また、このお店はトルコやロシアの料理も提供されていますので、好きなように様々な料理を選ぶことができます。特に、シャシリク盛合わせやサモサが人気です！！料理コースのなかには事前予約しておかないと食べられないものもありますので、ご注意ください。



店舗内観



シャシリク盛合わせ(チキン、ラム、ビーフ)



サモサ（中央アジアのミートパイ）

住所 東京都中央区八丁堀1-4-8 森田ビルB1F
営業時間 11：00～14：00、17：00～23：00、定休日（日曜）

China

権 慧さんのおすすめの中華料理店『千里香』は池袋西口に位置する中国東北料理です。地元中国の味が楽しめて、お客さんは中国人が多いです。去年4月に竜の子財団のOBや在学生と一緒に食べに行ったこともあります。

この店では卓上で焼く炭火の羊肉串が最も人気で、私の大好物でもあります。酢豚よりお酢をたっぷり入れた「もち米酢豚」、「魚香肉絲」と呼ばれる甘すっぱい肉炒め、「東北大拉皮」という冷菜などがとても美味しいです。

スタッフは全員中国人ですが、日本語や韓国語も対応できます。さらに、メニューは全部写真付きで分かりやすいです。



羊肉串



魚香肉絲



東北大拉皮

住所：東京都豊島区西池袋1-21-1 YKDビル7F
営業時間：11：00～翌00：00（年中無休）

Thailand

チャンポンバックディー インオンさんおすすめのタイ料理店『ゲウチャイ』は新宿駅の東口周辺にあるタイセレクト認定レストランです。タイセレクトと言うのはどこの国にいても本場のタイ料理を味わえるレストランの基準認定証です。タイ料理と言えばトムヤムクンがよく知られていて、辛い料理のイメージが強く思っていますが、今回はあまり知られていない料理を紹介します。

一つ目は、東北の料理ですが、タイ全国でどこでも食べられるソムタムタイです。完熟していないパパイヤの辛いサラダの事で、餅米と一緒に食べるならもっと美味しく食べれます。二つ目は蟹を卵とカレーパウダーのソースと炒めたプーパッドポンカレーで、タイでは蟹肉で作られたお店が多いですが、日本では食べやすくするため、ソフトシェルを使うお店が多いです。最後には、昔今上天皇がプミボン国王に50匹のティラピアを寄贈したことによってタイの国民的食用魚のブラーニンをニンニクと胡椒の味付けで揚げたブラーニントッドカティアムブリックタイが、辛くなくてとても美味しい料理です。

それらの料理以外にもデザートなどもたくさんあり、さらに辛い料理が苦手な方でも声をかければ辛さを調整できますので、タイ料理の本番の味を味わいたい場合はこちらのお店がおすすめです！



青パパイヤのサラダ（ソムタムタイ）



ソフトシェルクラブのカレー風味炒め
（プーニムパッドポンカレー）



タイ川魚の素揚げ
（ブラーニントッドカティアムブリックタイ）

住所：東京都新宿区新宿3-21-7 東新ビル2F
営業時間：11：00～23：00 定休日：無

編集後記

委員長 名古屋大学大学院 ユルダシェブ サドラ

この度、竜の子奨学生の第21号会報誌の編集長を務めさせていただき、有難うございました。会報誌の編集するなかで、日本語の難しさは改めて感じますが、今回は博物館や美術館のことを詳しく調べ、編集委員皆さんからの伝統的な料理の作り方の話をお聞き、楽しかったですし、勉強にもなりました。私は、第34回交流会のレポートと自国のおすすめ料理屋さんの部分を担当させていただきました。編集委員の皆さんの力で、会報誌を無事に完成することができました。編集委員の皆さんお疲れ様です！

副委員長 東京大学大学院 権 慧

副編集委員長の権慧です。会報誌を編集するのは二回目であり、前回とは違って、近況報告を担当しました。竜の子奨学生の投稿を一つ一つ読んで、私自身にたくさん元気づけることができました。またすでに卒業した先輩の近況を尋ね、久しぶりに連絡が取れてとても嬉しかったです。編集会議では財団事務所に訪ねること、ほかの編集委員とたくさん話ができること、会議後みんなで食事することなどは私にとって寒い冬の「小確幸」でした。論文と就活で忙しくて三回目の編集会議に参加できなかったが、ほかの編集委員の皆さんの協力で無事に会報誌を完成することができました。ありがとうございました。最後に、竜の子財団関係者と寄付者の皆様に感謝を申し上げます。

委員 電気通信大学大学院 グエン ドク ティエン

この度は、「竜の子奨学生」会報誌の第21号の編集委員として三度目の担当をさせていただきました。今回は、編集の流れと各委員が担当する部分についての経験があったことで、編集委員の皆さんと竜の子財団の関係者様方とお会いできる機会を楽しみにしながら、最後の留学生の生活を充実して送ることができました。特に今回は、東京でも母国のような味わいで食べられるお店を紹介する機会をきっかけに、自らの故郷の思い出が深い食べ物を改めて振り返ることができて、とても素敵な経験でした。最後に、第21号の編集が順調に進められたことで、この場を借りて竜の子奨学生とOBの皆さんをはじめ、編集委員の皆さん、並びに竜の子財団の関係者様方に感謝いたします。

委員 一橋大学 曾 毅春

この度再度会報誌の編集に携われることが大変有難く存じます。一番嬉しく感じるのは、毎回毎回の編集会議を通して編集委員のみなさんと仲良くなれたことです。特に編集会議後に編集委員の出身国の料理を食べに行く企画を通して、今まで知らなかった相手国の文化に触れたことが非常に楽しかったです。今年は奨学生として財団に所属する最後の年になりますので、最後の財団での時間を大切に、積極的に国際交流に関わっていききたいと思います。

委員 東海大学 チャンボーンバックディー インオン

この度、竜の子奨学生第21号会報誌の編集員を担当させていただきました。今回の会報誌は日本で母国の味が味わえるという特別な記事が増えたことで、ウズベキスタンやベトナムなど色々な国の伝統料理を食べる機会がありました。日本語や会報誌の編集仕方などだけではなく、奨学生の母国料理の文化まで体験でき、とても勉強になりました。さらに、編集会議中に皆さんと交流会の思い出を思い出しながら、お話ができ、より仲良くなれて、非常に良い経験でした。皆様のおかげで、本会報誌が形になりました。感謝いたします。

委員 立命館アジア太平洋大学 グエン ヴ タオ グエン

この度は、編集委員を務めさせていただきました。レポート作成の経験が不足だったので担当することになった時、不安や心配がありました。自分の伝えたいことについて書き、皆とシェアしながら文章を修正することで、色々なことを勉強できるようになりました。そして、私は直接会議に会えず、インターネットで遠くからのSkypeの参加だったのですが、編集委員の皆さんの優しい指導やサポートのおかげで、楽しく交流しながら編集を完成することができました。今回貴重な経験を与えてくださった関係者の皆様に感謝いたします。



第三回編集会議とその後



第二回編集会議後にて



第一回編集会議にて



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず